

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

屋久島町立神山小学校 教諭 菊永 美樹

1. 単元名 かわひこ広めようプロジェクト(残したい!屋久島の産業の「味力・未力・魅力」)

2. 単元の目標

- ・ 伝統野菜や農業を継承することの大切さを理解し、情報を比較、分類、関連付けるなどの探究の過程に応じた技能を身に着けることができる。 (知識・技能)
- ・ 目的に応じて必要な情報を選び、見通しをもって追究し、工夫しながら筋道立てて表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 伝統野菜や農業の継承に課題意識をもち、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

従来5年生は学校園のじゃがいも、さつまいもを教材として探究活動をしていたが、今年度は鹿児島大学農学部の中野さんの協力を得て、神山小初めての伝統野菜作りに取り組む。児童にとってもなじみが薄い野菜であるが、「伝統」を継承する、農業の大切さを広める活動を手探りで行える魅力的な教材といえる。また、社会科の農業分野、家庭科の調理実習など教科横断的に授業を展開することができる。

(2) 児童観

8名の児童は、3年生の「本富」で「屋久島防衛隊(YB)」を結成し、数名で地域の保護猫活動を自主的に行うなどの活動をしてきた。また、4年生では環境省レンジャーとの山・海の活動を体験し、学習発表会で発表したり、地域の商店にポスター掲示を依頼したりしたことがあり、行動力のある児童が多い。一方で、学力面で配慮が必要な児童が多く、精神面からの遅刻や欠席が目立つ。この単元の学習を通して、これらの児童が自分事として課題を捉え、主体的に考え活動し、活動を通して自己の生き方に生かすことができると考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず4月の種芋植えからの活動を振り返らせ、3学期の収穫を見据えて何をすればよいか考えさせる。

次に、調理方法を調べさせて試作、試食させる。その際に鹿児島大学農学部の中野さんへのサプライズという形をとり、職員にも試食してもらうことで活動への意欲を高めさせる。伝統的な和風料理、現代的な西洋料理、創作的なスイーツなど今後のレシピ紹介を視野に入れて作らせる。

11月には家庭科でプロ学の「ニチレイ食品のチャーハンのプレゼンをしよう」の学習が決まっているので、郷土食材の中に「かわひこ」も入れてアイデアを練らせる。

さらに、伝統を守る大切さや、農業の大切さを実感させるために集落の高齢者に聞き取りをさせて1月に「がんちよいも」を作らせる。そこで、農業と祭り、文化、景色や

環境保全との関連（農業の多面的機能）に気付かせ、自分たちの活動意義について再考させる。

収穫が近づく前に、5月に作成した「やりたいこと」の表やSWOTの表を活用し、具体的にどうやって広めるかアイデアを出させる。主体的に取り組ませるために、活動内容を分け、自分たちで方法を考え、交渉する経験を積ませたい。

また、2学期のうちから、活動の写真をもとに掲示物やプレゼンテーションを作らせておき、機会を捉えて中間発表やまとめの発表をさせ、探究活動をした達成感を味わせたい。視野を広げるため、新潟県や奈良県の小学校との交流機会ももたせる。

活動の最後に、SDGsとも関連づけて1年間の取組を振り返らせ、自分たちがこれから農業とどうつきあっていくか考えさせたい。

（４） ESDとの関連

- ・ この題材で働かせる ESD の視点（見方・考え方）
 - B 相互性：産業は自然と密接な関係にあり、身近な環境や地球環境も考える必要があることを理解している。
 - C 有限性：伝統的な野菜や豊かな自然も限りがあるので、私たちが守っていく必要があるということを理解している。
- ・ この学習を通して育てたい ESD の資質・能力
 - ② システムズ・シンキング：生産者も、消費者も、屋久島も豊かになるような産業の在り方について総合的・多面的に考える。
 - ⑤ 共働的問題解決力：飲食店や企業、地域の人々と連携して伝統野菜を広める活動を行う。
- ・ この学習を通して育てたい ESD の価値観
 - ① 世代間の公正を重要視する価値観
 - ③ 自然環境・生態系の保全を重視する価値観
 - ④ 人権・文化を尊重する価値観
- ・ 達成が期待される SDGs
 - 8 働きがいも経済成長も
 - 11 住み続けられる町づくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 伝統野菜や農業を継承することの大切さを理解することができる。	① 見通しをもって課題を追求することができる。	① 伝統野菜や農業の継承に課題意識をもつことができる。
② 情報を比較、分類、関連付けるなどの探究の過程に応じた技能を身につけることができる。	② 「調べる」「広める」などの目的に応じて必要な情報を選び、工夫しながら筋道立てて表現することができる。	② 自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。

5. 単元の指導計画（全30時間）

時	主な学習活動	学習への支援	評価備考
1 導 入 ・ 課 題 の 設 定	1・2（9月） 1学期の取組を振り返り、かわひこを広めるため今後の見通しをつかむ。 ・ 新しい食べ方を開発したい。 ・ 伝統的な食べ方を復活させたい。 ・ 地域や観光客にPRしたい。 どんな調理方法ならかわひこの魅力が伝わるのだろうか。	・ かわひこを広めるヒントは得たが、まだ普及活動はしていないことに気づかせる。 ・ トビウオ料理のレシピ集やパンフレットを提示し、自分たちにできる活動は何か考えさせる。	イ① (思判表) ウ① (主体的)
2 情 報 の 収 集	3～12 ○ グループに分かれて調理方法を調べ、実際に作ってみる。 ① 地元の飲食店(なからせ)へのインタビューやインターネット調査をする。(9月) ② 簡単なお菓子やおかずを作ってみる。(10月 煮物・コロッケ・かき氷) ・ 里芋とは違う味だな。 ・ もちもちの食感を活かしたいな。 ○ チャーハンの具として商品開発の疑似体験をする。(11月) ① 他の屋久島の素材と合わせてレシピを工夫する。 ② プレゼンを作成し、企業のプロにアドバイスをもらう。 ・ 人にPRするって難しいけどおもしろいな。 ・ 地域素材って大事だな。 ○ 正月の伝統料理「がんちょいも」を作ってみる。(1月) ・ 暮らしに農業が密接に関わっていたんだ。	・ 電話のかけ方、インタビューの仕方などのワークシートを活用させ、児童主体で調べるようにさせる。 ・ 事前に季節外れのかわひこが手に入るよう、材料の調達をしておく。(おにつか農園・和田さん) ・ 達成感を高めるため、鹿大の中野さんや職員にも試食してもらう。 ・ ニチレイの「プロ学」でチャーハンに合う具として商品開発できることを知らせる。 ・ 「プロ学」については、家庭科担当教員と連携する。 ・ 地域の高齢者に昔の農業、文化のことをインタビューさせる。	イ①② (思判表) ウ② (主体的) イ①② (思判表) ウ② (主体的) ア① (知・技)
3 整 理 ・	13・14（12月・1月） ○ 農業の多面的機能についてまとめる。 ○ 地域の人や観光客へのPRの方法を	・ 自分たちの活動が農業を広める活動であったことに気付かせる。 ・ 1学期のSWOTや計画をも	ア② (知・技) イ① (思判表)

分析	<p>考える。</p> <p>どこでどのように売るか。</p> <p>何を伝えたいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業の大切さをPRしたいな。 	<p>とに、これからの計画を整理・分析させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生の佐仁にんじんのパンフレットを提示する。 	
まとめ ・ 表 現	<p>15～26</p> <p>収穫し取組をまとめて発表・PRする。</p> <p>○ <u>売るまたは配布する（2月）</u></p> <p>ぼんたん館・果鈴・PTA行事・学習発表会（パンフレットをつけて）</p> <p>○ <u>企業に提案する</u></p> <p>ニチレイ「プロ学」（11月）</p> <p>○ <u>地域に提案する（1～2月）</u></p> <p>学習発表会（3月・パワーポイント） 地域の公民館（パンフレット） 東部給食センター（給食献立として）</p> <p>○ <u>観光客や多くの人に提案する</u></p> <p>JA（広報たねやく）・町の広報誌 南日本新聞（10月）・you tube 地元飲食店・物産館</p> <p>○ <u>他の小学校に紹介する</u></p> <p>奈良県辰市小（9月・10月・3学期） 新潟県新井北小（10月・3学期） ESDウィーク（町内小学校・2月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> タブレットで、1学期からの写真やレポートを活用して、複数回使用できる簡単なパワーポイントを作成させる。 町の広報課やテレビ局、JAなどに事前に知らせ、その後児童に交渉させる。 かわひこの紹介や調理の仕方をまとめたパンフレットを作成させ、配布場所などはなるべく自分たちで考え、交渉させる。 	<p>ウ② （主体的）</p> <p>イ② （思判表）</p> <p>ア② （知・技）</p> <p>イ② （思判表）</p>
振り返り ・ 発展	<p>27～30（3月）</p> <p>○ 伝統野菜や農業の普及のために今後もできることを考える。</p> <p>○ ESDアドバイザーの話を聞き、SDGsとの関連を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や農家が作り続けることが大切。 各家庭で伝統を守り続けたい。 来年度の5年生に栽培方法を伝えよう。 お世話になった人にお礼の手紙を書こう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちと農業の関わりを考えさせる。 森林学習と関連づけ、地球規模での環境について考えさせる。 この取組で学んだことを文章にまとめさせる。（国語・12月） 食べ物の地産地消と輸出入について調べさせる。（社会・9月） 	<p>ア① （知・技）</p> <p>ウ① （主体的）</p>